

回覧用									

発行日	令和5年3月1日
発行元	災害対策課
所属長	森本 仁信
電話	06-6489-6165

防災対策情報便

防災



令和5年2月号

1 長周期地震動による被害の可能性がある場合も緊急地震速報が発表されます！

気象庁は、「最大震度5弱以上」を予想した地震について震度4以上の地域を対象に緊急地震速報を発表していますが、**令和5年(2023年)2月1日からは、新たに「長周期地震動階級3以上」を予想した地域にも緊急地震速報を発表**されるようになりました。

また、地震発生から20～30分程度を要している長周期地震動に関する観測情報の発表を迅速化し、**地震発生から10分程度で発表**する運用となりました。

チェックポイント

そもそも長周期地震とは？

大きな地震で生じる、周期(揺れが1往復するのにかかる時間)が長い大きな揺れのことを長周期地震動といいます。長周期地震動により、**特に高層ビル**は大きく長時間揺れ続けることがあります。

また、長周期地震動は遠くまで伝わりやすい性質があり、地震が発生した場所から数百kmは離れたところでも大きく長く揺れることがあります。長周期地震動による大きな揺れにより、家具類が倒れたり・落ちたりする危険に加え、大きく移動したりする危険があります。

階級1 ●室内にいたほとんどの人が揺れを感じる。驚く人もいる。 ●ブラインドなど吊り下げものが大きく揺れる。	階級2 ●室内で大きな揺れを感じ、物につかまりたいと感じる。物につかまらなさと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。 ●キャスター付きの家具類等がわずかに動く。棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。
階級3 ●立っていることが困難になる。 ●キャスター付きの家具類等が大きく動く。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	階級4 ●立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされる。 ●キャスター付きの家具類等が大きく動き、転倒するものがある。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。

チェックポイント【屋内編】

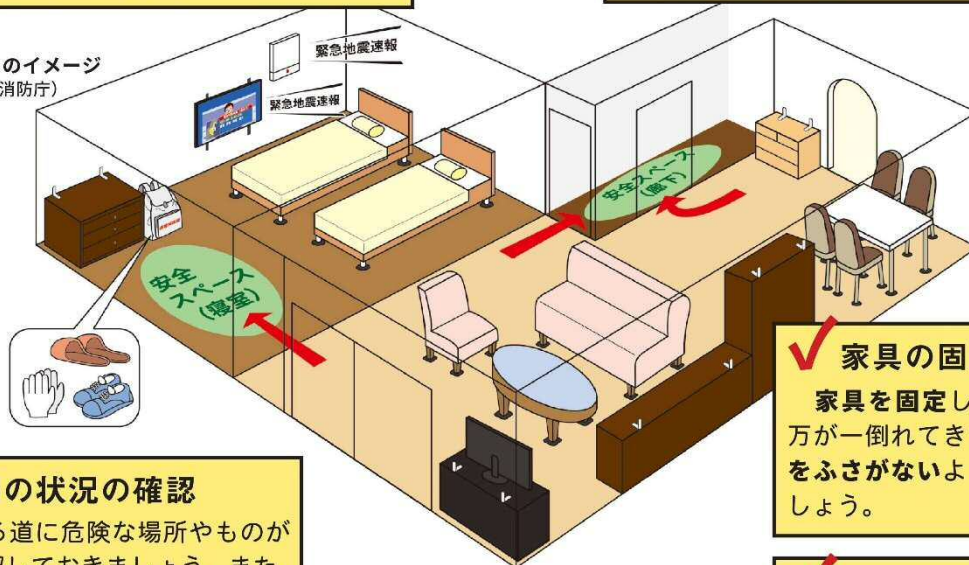
✓ 備蓄・非常持ち出し品の準備

非常時の水・食料の備蓄や、非常用持ち出し品を準備しておきましょう。

✓ 安全スペースの確保

室内になるべくものを置かない「安全スペース」（ものが落ちてこない・倒れてこない・移動しない空間）を作っておきましょう。

室内の備えのイメージ
(資料：東京消防庁)



✓ 周囲の状況の確認

普段通る道に危険な場所やものがないか確認しておきましょう。また、地盤の弱い場所や地震によって地盤の緩んだ場所では、降雨などにより土砂災害が発生することがあります。前もって周囲の状況を確認しておきましょう。

✓ 連絡手段の確認

地震が発生したときの連絡手段や集合場所について、あらかじめ家庭で話し合っておきましょう。

✓ 家具の固定

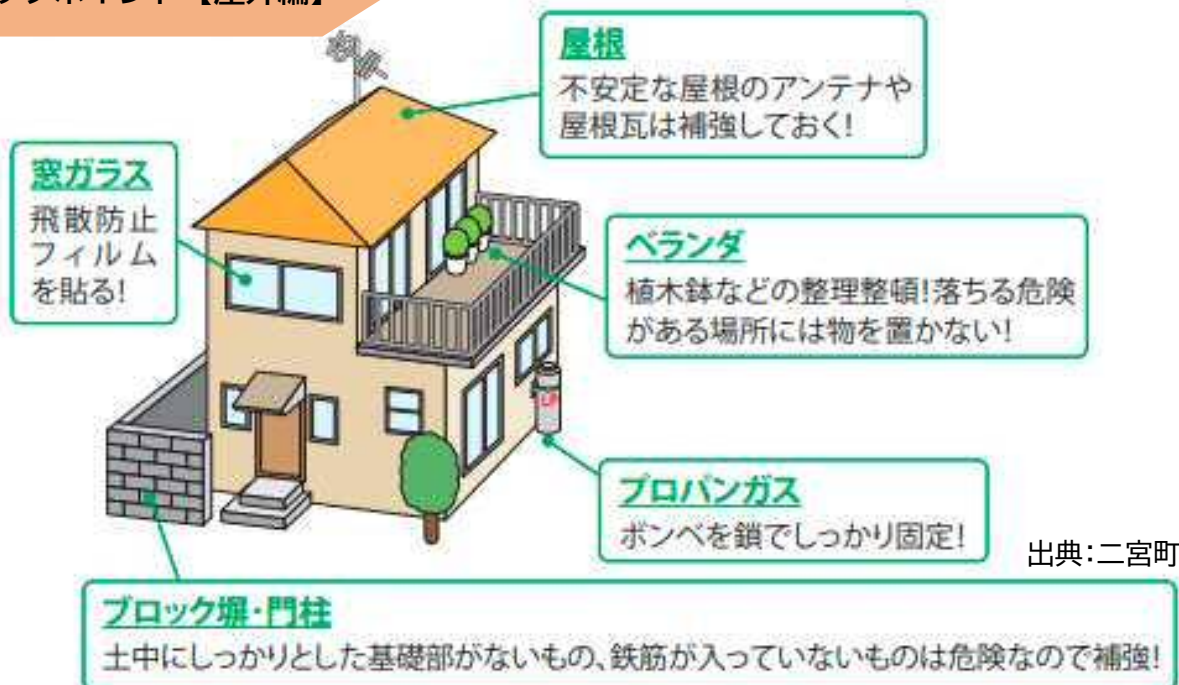
家具を固定しましょう。また、万が一倒れてきた場合でも、通路をふさがないように配置を考えましょう。

✓ 訓練に参加しよう

本当に地震が起こったときに、あわてずに身の安全を図ることができますか？積極的に訓練に参加しましょう。

チェックポイント【屋外編】

出典：気象庁



出典：二宮町

特にマンションや高層ビルにおいては、長周期地震動により物干し竿や植木鉢をベランダに設置している場合は落下する危険性が高いため、必ず固定するか屋内に移動させるなど落下しないようご注意ください。

2 地域の訓練に密着しました！！

杭瀬団地連協自主防災会



兵庫県立尼崎小田高等学校の生徒と一緒に民生児童委員が見守り活動を実施している方を対象に安否確認訓練を実施しました！

武庫第11自主防災会



本部との連絡を密に取りながら、通行ができなくなった道(仮定)を避けながら避難先までの誘導を行いました！

3 地域の防災 つなぎ隊！！

今回は、小田地区の杭瀬団地連協自主防災会の増田会長にインタビューしました。杭瀬団地連協自主防災会は、「2地域の訓練に密着しました！！」で紹介したとおり、今年度も自主防災訓練を行いました。

元々、県立尼崎小田高等学校と杭瀬団地連協自主防災会には防災を通じて繋がりがありましたが、新型コロナウイルスによって訓練などを中止せざるを得ない状況になりました。

しかし、今年度再び機運が高まり、高校生らと共に、民生児童委員の見守り活動を活用した安否確認訓練などを行いました。



Q 地域の防災活動を行うにあたって意識されていることは何ですか？

A 私が最も大切にしていることは、「弱い人を取り残さない。」です。率直に言うと、「出来る人は、放っておいてもどうにかなる。」と思っています。災害時には、特に「弱い人」が被害に遭う可能性が高いということもあり、普段の顔の見える関係づくりを心がけることによって「弱い人も取りこぼさない。」という意識を高めています。

Q 今年度、見守り活動を行っている方へ安否確認訓練を行いました、何か気付いた点などはありましたか？

A 防災において、「垣根」はないということです。今回の訓練では、杭瀬団地の日頃見守り活動を行っている方に対して、安否確認訓練を行いました。実災害においてはそう言っておられない状況が起こりえます。そういう想定を考えると、日頃から隣近所の自主防災会と連携した活動をしていくべきということを改めて認識しました。私たちの自主防災会では、過去に隣りの自主防災会と防災マップ作りをしたこともあり、こういう活動を続けていきたいと思っています。

Q 今後地域において取り組んでいきたいことはありますか？

A 今、主に活動しているメンバーがずっと引き続き活動できるとは限りません。いずれ、世代交代があった時には、今までやってきたような活動からガラッと様変わりしても構わないと思っています。新たなメンバーで新たな取り組みをしてくれることを私は、温かく見守っていきつもりです。